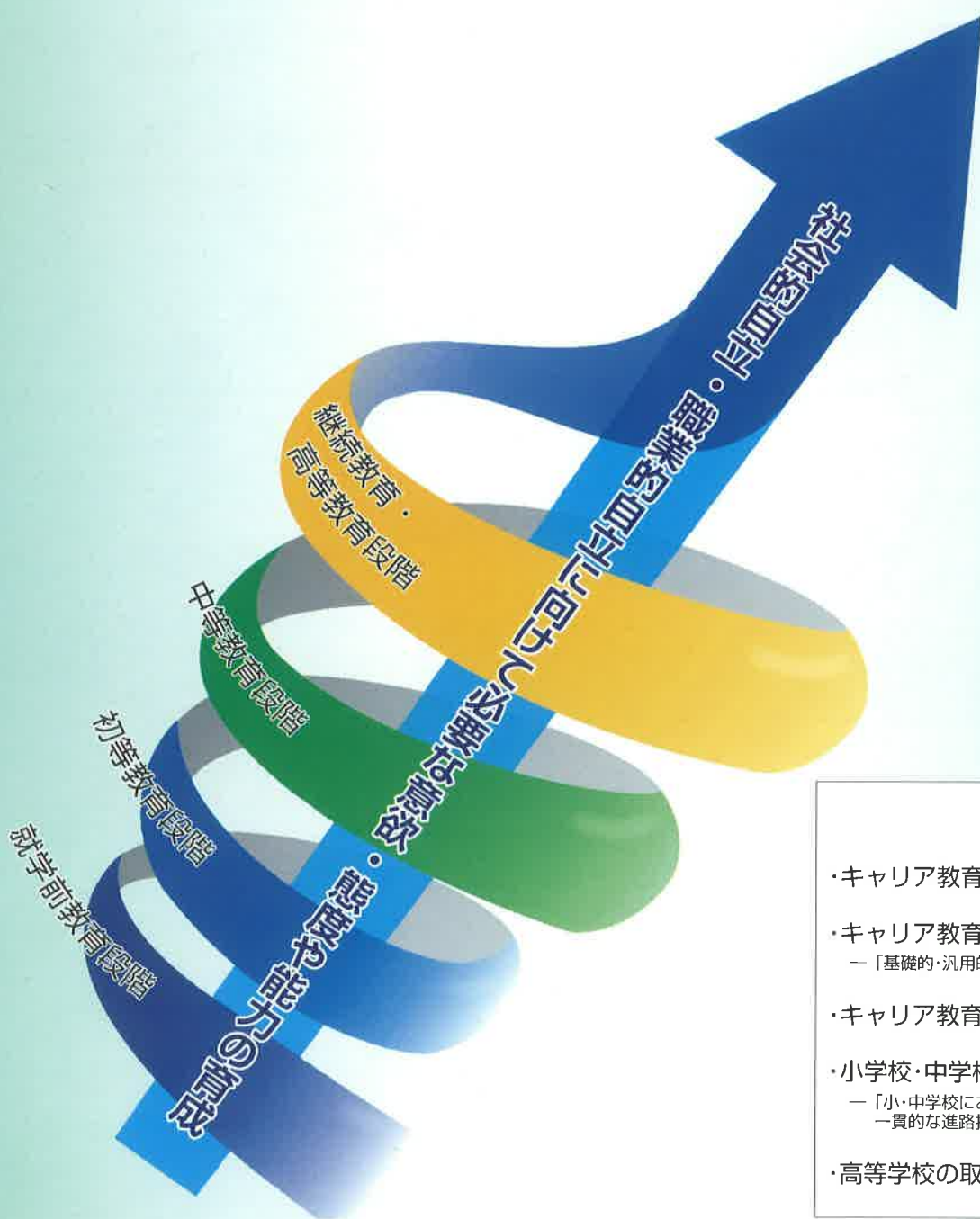


平成23年度文部科学省指定事業

「小・中学校における体系的・一貫的な進路指導に関する調査研究」

キャリア教育の推進に向けて



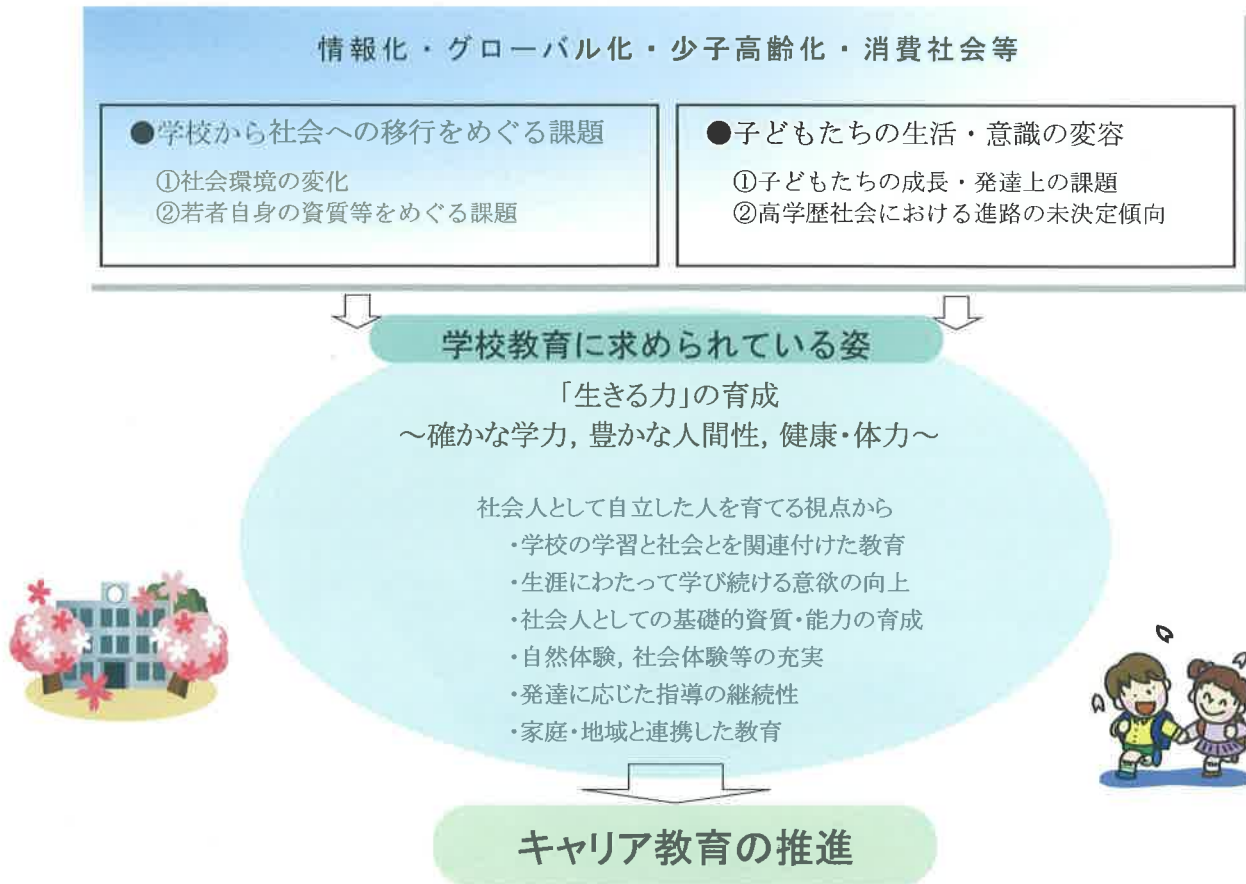
目次

- ・キャリア教育の必要性と定義…………… 1
- ・キャリア教育で育成すべき力…………… 2
 - 「基礎的・汎用的能力」—
- ・キャリア教育の推進…………… 3
- ・小学校・中学校の取組…………… 5
 - 「小・中学校における体系的・一貫的な進路指導に関する調査研究」—
- ・高等学校の取組…………… 11

平成24年3月
徳島県教育委員会

キャリア教育の必要性と定義

<キャリア教育の必要性>



キャリア教育とは

一人一人の社会的・職業的自立に向け, 必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して, キャリア発達を促す教育

キャリアとは

人は, 他者や社会とのかかわりの中で, 職業人, 家庭人, 地域社会の一員等, 様々な役割を担いながら生きている。これらの役割は, 生涯という時間的な流れの中で変化しつつ積み重なり, つながっていくものである。また, このような役割の中には, 所属する集団や組織から与えられたものや日常生活の中で特に意識せず習慣的に行っているものもあるが, 人はこれらを含めた様々な役割の関係や価値を自ら判断し, 取捨選択や創造を重ねながら取り組んでいる。

人は, このような自分の役割を果たして活動すること, つまり「働くこと」を通して, 人や社会にかかわることになり, そのかかわり方の違いが「自分らしい生き方」となっていくものである。

このように, 人が, 生涯の中で様々な役割を果たす過程で, 自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねが, 「キャリア」の意味するところである。

キャリア発達とは

社会の中で自分の役割を果たしながら, 自分らしい生き方を実現していく過程を「キャリア発達」という。

人間関係形成・社会形成能力

- ・ 多様な他者の考え方や立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝える力
- ・ 自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力
(例) 他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキルなど

自己理解・自己管理能力

- ・ 自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動する力
- ・ 自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力
(例) 自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力など

課題対応能力

- ・ 仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力
(例) 情報の理解・選択・処理等、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善など

キャリアプランニング能力

- ・ 「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力
(例) 学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、行動と改善など

※ この4能力は

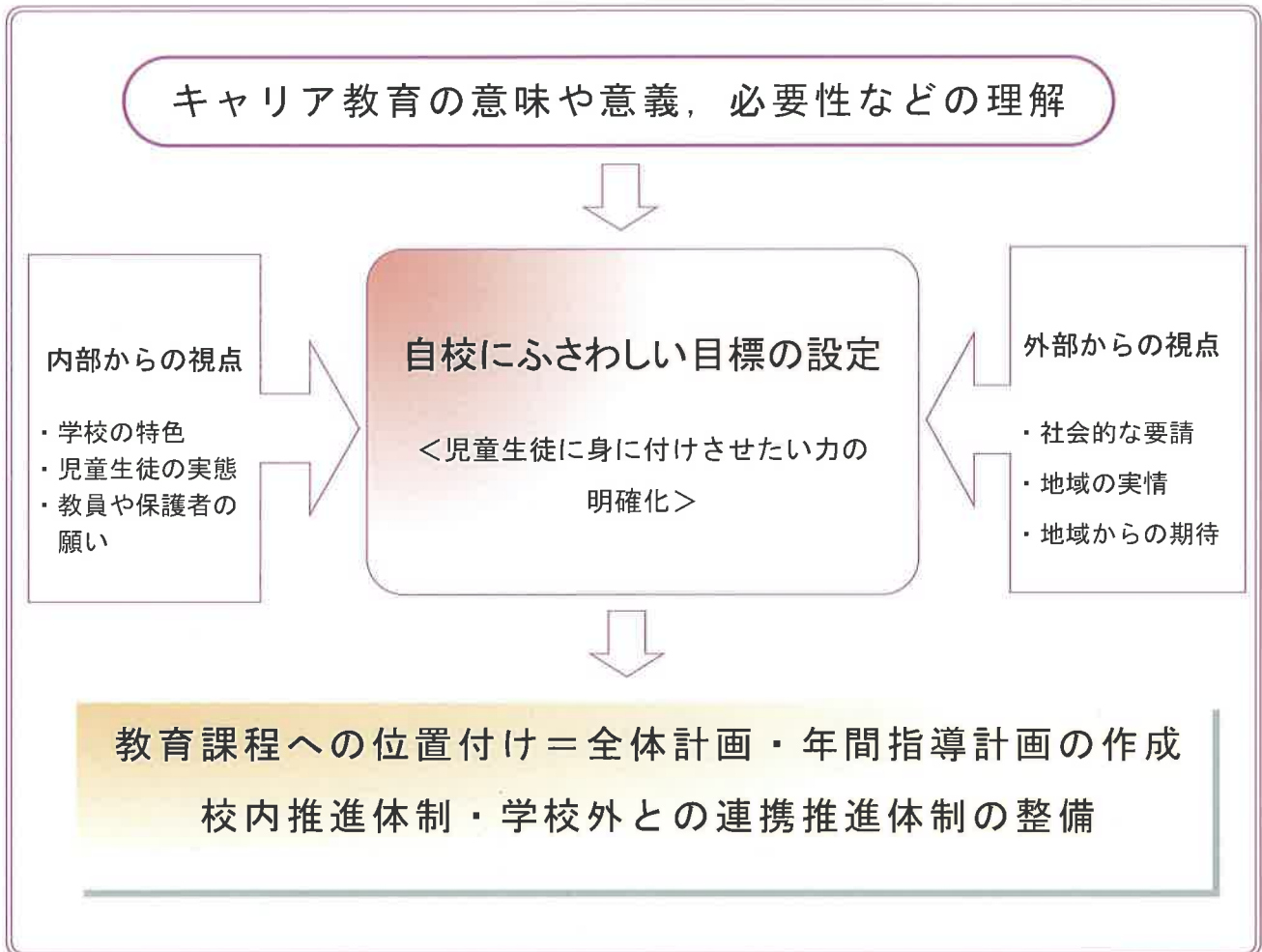
- ・ 相互に関連・依存した関係にありますが、特に順序はありません。
- ・ すべての者が、同じ程度あるいは均一に身に付けるものではありません。
- ・ 学校や地域の特色、専攻分野の特性や児童生徒の発達の段階によって、身に付ける程度は異なります。

※ 各学校で、児童生徒に身に付けさせたい能力を具体的に目標設定し、取り組んでいきましょう。

その際、日常の生活や学習活動の中での児童生徒の実態把握や全国学力・学習状況調査における基礎的・汎用的能力に関連する項目等を参考にしながら、課題を見つけ、達成できる具体的な目標を設定しましょう。



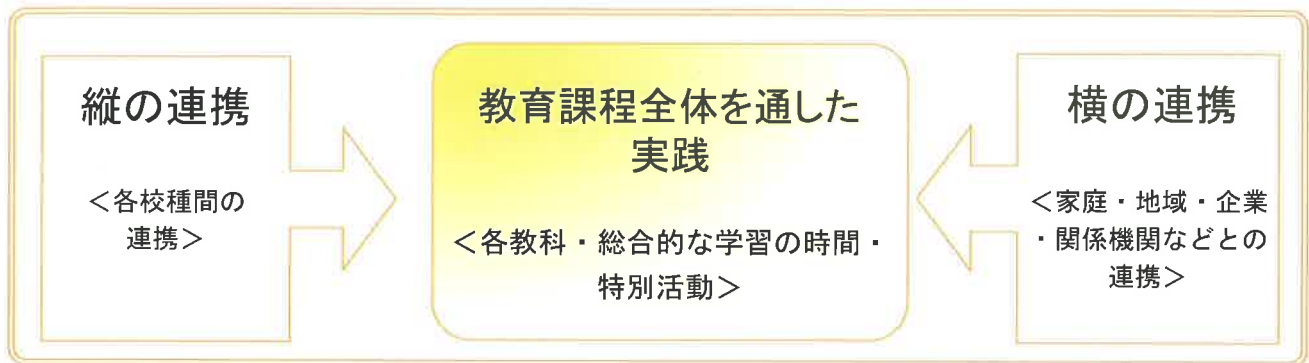
Plan 学校や児童生徒の現状を把握し，目標を立て，指導計画をつくきましょう。



- ・ 実態把握にあたっては，アンケート，面接，観察，自己評価等を活用しましょう。
- ・ 目標設定にあたっては，児童生徒に「何をできるようにさせたいか」という視点で言語化され，検証が可能である目標を設定しましょう。
- ・ 全体計画には，「各校のキャリア教育の目標」「教育内容と方法」「育成すべき能力や態度」「各教科等との関連」などを記入しましょう。
- ・ 計画の具体的な作成にあたっては，各校種の手引きを参考にしましょう。



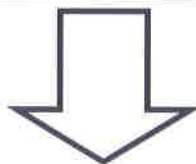
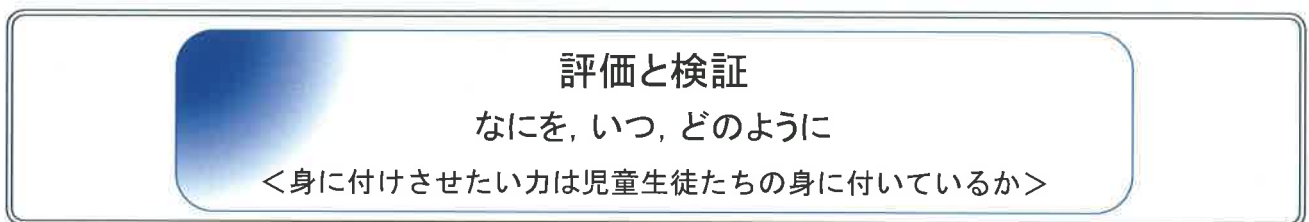
Do 教育活動を展開し，フォローアップや修正を行いましょう。



・これまで行ってきた様々な教育活動を見直し，一つ一つの活動をつなげ，体系的・系統的な取組をしましょう。
・児童生徒とコミュニケーションを図りましょう。



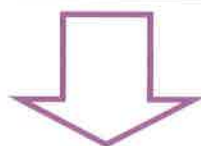
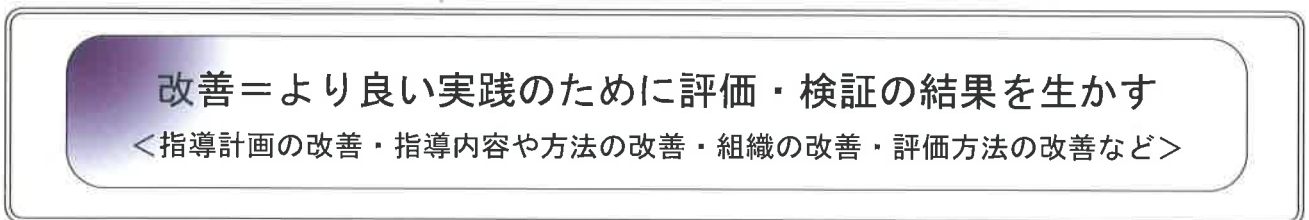
Check 取組の目的に応じて児童生徒の変化をとらえましょう。



・児童生徒の自己評価, 相互評価, ポートフォリオ等を活用しましょう。



Action 導き出された新たな課題を踏まえて生かしましょう。



Plan

阿南市の取組

「ふるさとを愛し郷土を担う人材の育成をめざして」

～ 小中学校連携によるキャリア教育の推進（発達段階に応じたキャリア教育）～

I はじめに

阿南市立福井中学校区では、これまで行われてきた進路指導及び総合的な学習の時間の学習内容をキャリア教育の視点で見直した。小・中学校と連続した9年間の流れとして見ることで、児童生徒の進路を確かなものにするとともに、郷土を振り返り、ふるさとを愛し、郷土を担う人材の育成に力を入れていくことが、地域の中で生活している子どもたちのために必要な力だと考え、本研究テーマを設定した。

II 研究にあたって

本年度は、次の3点を重点に取り組むこととした。

- 小・中学校連携キャリア教育の推進による基礎的・汎用的能力の育成
- 地域や家庭と連携したキャリア教育の推進
- 小・中学校9年間を見据えた活動内容の設定や計画

本年度の研究テーマ

小学校：人とかかわりの中で自分を知り、自分の生き方への手がかりを見つけ出していく。

中学校：人とかかわりの中で自分を見直し、自分の生き方（進路）への手がかりを見つけ出していく。

III 実践

【福井小学校】

★ふるさと福井を支えてきた竹の活用について調べ、その未来についてふるさとに発信する取組

竹 project 1 「タケノコ掘り」

<人間関係形成・社会形成能力>

保護者の協力を得て、タケノコ掘りを体験した。家庭での手伝い経験のあるタケノコ掘りのベテランの子どもから初めて山へ入る子どもまで、それぞれの経験に違いはあったが、春の福井を満喫した。さらに、子どもたちは、その場でいただいた朝掘りタケノコのお刺身に、ふるさとの味を堪能した。



竹 project 2 「タケノコ料理」

<人間関係形成・社会形成能力>

<自己理解・自己管理能力>

自分が作りたいたケノコ料理のレシピ発表会を行い、タケノコチャーハン・タケノコのかき玉汁・タケノコのミートボールを作ることに決めた。実習では6名の保護者の協力を得て安全に調理し、多様なタケノコ料理を味わった。



竹 project 3 「福井集荷場 取材準備・取材訪問」

<課題対応能力>

「タケノコの料理法は分かったが、タケノコが採れる季節以外はどうやって手に入れるのか？」との疑問の下、タケノコ製品に着目し、JA あなん福井集荷場での見学・聞き取りを考えた。この準備は課題対応能力育成の絶好の機会であり、見学・聞き取りの電話申し込みを子どもたち自身に取り組みさせた。原稿を班ごとに作成し、全員で読み



合わせながら1つにまとめ、申し込みを行った。子どもたちは、様々な学習や生活での経験をまさにかき集めて自分たちの思いを実現した。片道 1.3km を歩いての訪問。集荷場では、JA あなんの方にお世話になった。子どもたちは、「12月なら2kgで1万円。」と聞いて驚いたり、「タケノコ農家のみなさんの喜ばれる顔を見るのが一番嬉しい。」との職員の方の言葉に、働くことの意義を実感したりと、充実した取材訪問となった。



竹 project 4 「新しい竹産業を提案しよう」

<自己理解・自己管理能力, 課題対応能力>

子どもたちは、未来に向かって福井の竹をさらに有効利用できないかと考えるようになった。家族への聞き取りや関係資料・インターネットを活用して調べていく中で、新竹時代会社「竹ひりょう」・竹電会社「竹風力発電」・竹バイオ社「バイオマスエネルギー」の3社を立ち上げた。各社、竹を活用した新しい産業についての可能性についてまとめ、2月の「ありがとう集会」で報告した。



★ふるさと福井の防災の歴史に学び、これからの防災の在り方を学ぶ取組

・生活防災こそ人と人の関わりを抜きにしては考えられないことを学んだ。人との関わりを豊かにしていくことで、それぞれの防災力を具体的で実効的なものへ高めることができた。

大阪大学との防災学習

<社会形成能力>

大阪大学から3名のGT（准教授、院生、学部生。3月11日東日本大震災後、阿南市福井町湊地区に入って防災の聞き取り研究を実施しているチーム）を迎えた。調べたことや考えを発表した。



大切なのは、生活の中に防災があるということ。これからはもっと自分の町をよく知ったり、家族といろんな話をしたり、近所の人と仲良くします。（児童感想）

阿南市総合防災訓練

<社会形成能力>

小学校グラウンドを主会場に阿南市総合防災訓練が実施された。屋外避難訓練、消火バケツリレー、煙体験、自衛隊員との交流、炊き出しカレー試食と様々な体験ができた。様々な立場の方の中に入り、交流する場面で、人の話に素直に耳を傾けられる等、これまで獲得してきた学びを発揮した。



また、全校で取り組む「被災者支援ベルマーク活動」にもさらに継続して取り組もうとする意識を高めることができた。

【福井中学校】

★福井町や阿南市を支えてきた仕事を体験することで地域の一員である自覚をもたせる取組



職場体験活動（実施学年：第2学年及び第3学年、実施期間：2日間）

<課題対応能力>

○実施に当たって

- ・事前指導：第1学年「先人の生き方に学ぶ交流会」
- ・直前指導：第2学年「マナー講習」
- ・直後指導：第2学年「活動のまとめ」
- ・事後指導：第3学年「保育ふれあい体験」「進路選択」
- ・体験事業所（2年生：福井町内15事業所 3年生：阿南市内9事業所）
小学校3～6年生で見学した地域の事業所（公民館、農家、郵便局、日用品店）
阿南市内の病院（ハローワークの協力で紹介）



職員室での仕事の種類の多さにびっくりしました。学校の先生になりたいと思っていましたが、さらに気持ちが引き締まった気がします。（生徒感想）

病院で働くことの大変さを改めて学びました。立ち仕事の厳しさとミスの許されない仕事での責任感と判断力の大切さを学びました。（生徒感想）

「何よりも子ども好きで、生活のあらゆる場面で児童と関わろうとする姿勢は、我々現場の教員も学ぶことが多かった。用務の先生の仕事を手伝ったり、学校文書の配布など職員室の雑務も手伝ったりと学校にも様々な職種、仕事があることを学んでくれたことと思う。近い将来、地元の教員として活躍することを期待する。」（小学校）

「職場体験学習に当社へお越しいただき、ありがとうございました。現場で一生懸命作業をしてくれ、お客様からお褒めの言葉を頂きました。現場の主任と一緒に業務に携わり、仕事としての清掃を学んでいただき、何らかの勉強をしてもらったのではないかと考えております。そして、この様な機会を得られたことで、当社でも業務に対する認識を改めて感じる事ができました。」（清掃業）

【福井小・中学校合同】

★小・中学校合同の活動に積極的に参加し、異年齢集団の中で人とのかかわり方を学ぶ取組



小学校・中学校合同オリエンテーリング

＜人間関係形成・社会形成能力、自己管理能力＞

今年度、小学校・中学校のさらなるつながりと深まりを目的に「ふるさと再発見ウォーク」を立ち上げ、小学校・中学校の垣根を越え、集団行動の大切さを学ぶと共に、地域を知り、人権について学ぶオリエンテーリングを実施した。子どもたちは、異年齢集団において自分の役割を学び、実践しようとしていた。

「事前学習」



事前学習として、小学校グラウンドを利用して、自己紹介とボール渡し競争、花いちもんめを行った。児童生徒は、はじめから積極的に手をつなぎ、活動することができていた。小学校と中学校が連携することによって、子どもたちの成長を見るよい機会となった。



「合同オリエンテーリング」

小学生と中学生を16の班に縦割りし、決められたルートに従って、福井町内を散策した。道中の「人権、小学校、中学校、キャリア教育、地域産業、福井町の地名」に関するクイズから、中学生の知識の豊富さと、小学生の行動力を見ることができた。



チームの人たちにつづく言い過ぎたかなと反省しています。1年生が疲れて動かなくて大変でした。でも、6年生や中学生が手をつないであげたり、私はリュックを押ししたりしてあげました。今回はよく「大丈夫」とかきいたりできました。来年はもっと言葉を優しく言えるようになりたいです。（5年生児童感想）

地元のことでも知らないことがたくさんあることに気づきました。これからも続けていきたいです。（生徒感想）

小学校1年生から中学校3年生までが1つの班として行動していたので、中学生が小学生の面倒を見る場面が多くあった。地元のお寺を昼食場所として開放していただいたり、保護者の方々の協力で児童生徒の水分補給場所を設置していただいたりした。また、トイレの提供を快く引き受けてくれるなど多くの方々に協力していただき実施できた。散策中に児童生徒の様子を見に出てきてくれる方々もいた。

IV おわりに

【成果】

- ・キャリア教育を実践することにより自分に自信がもて、今後の成長のために進んで学ぼうとする姿や他人に対してより積極的に関心をもち、学校生活でもあいさつがよりしっかりできるようになるなど、自己管理能力や人間関係形成・社会形成能力を養うことができた。
- ・様々な活動を通して、郷土のすばらしさを再認識できた。
- ・ハローワークとの連携で校区外の事業所が、迅速に職場体験活動を受け入れてくださった。また、校区内の職場をより多く体験先にするすることで、家庭への連絡や周知がスムーズに行えた。
- ・高等学校を漠然とした進路先と考えていた生徒たちが、その後の就職についても考えられるようになるなど、キャリアプランニング能力の高まりが見られた。
- ・小学校と中学校合同の活動は、先輩の姿に自らの成長のモデルを見出し、今自分にできることは何か考え、それを行動としていく、まさにキャリア獲得の場そのものとなっている。

【課題】

- ・年間計画を作成する中で、職場体験活動の時期と事業所の活動時期との調整。
- ・小学校で職場体験活動を行う場合の中学生のメリットの明確化。
- ・教職員と地域事業所間の綿密な打合せの必要性。
- ・職場体験活動以前の職場聞き取り調査などの充実。
- ・保育所・小学校・中学校の教職員間での系統性・連続性のあるキャリア教育の研修。
- ・幅広い事業所先の開拓をするためのハローワークとの連携。
- ・各学年、各年度による児童生徒たちに身に付けさせたい能力の重点化・意識化。

美馬市の取組

【岩倉小学校】

「体験活動を基盤にした特色ある取組を生かしたキャリア教育の推進」

I はじめに

本校の特色ある取組である食育活動を核にして、体験学習や体験活動をあらゆる機会、場面で取り入れ、学校生活に変化と活力をもたせ、将来に向けての夢と希望の持てる教育を展開していきたいと考え、研究テーマを設定した。

II 研究にあたって

全教職員を企画・広報部、生活基盤部、連携部、研究推進部の4部会に分け、研究を推進した。

○企画広報部

- ・全体計画、指導計画の作成
- ・カレンダーの作成
- ・広報活動(ホームページ・新聞等の作成)

○生活基盤部

- ・基本的な生活態度の育成、望ましい生活習慣確立に向けての取組の推進

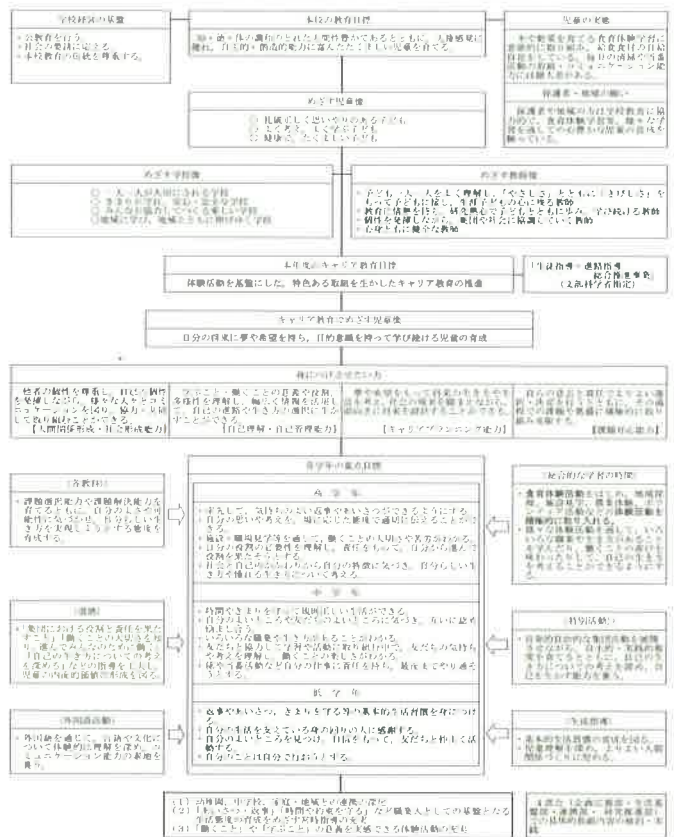
○連携部

- ・学校間連携、学校・家庭・地域との連携の推進
- ・「働くこと」や「学ぶこと」の意義を実感できる体験活動の推進

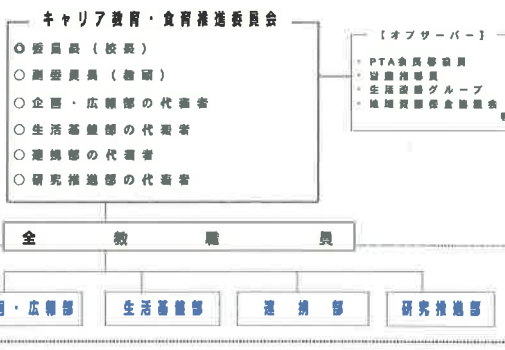
○研究推進部

- ・校内研修の推進
- ・研究物の作成

平成23年度岩倉小学校キャリア教育全体計画



平成23年度キャリア教育・食育推進組織



III 実践

収穫した野菜の販売(第5学年)

<キャリアプランニング能力>

栽培した野菜を地域の人や保護者にも食べてもらいたいと考え、野菜の販売に取り組んだ。総合的な学習の時間に、営農指導員の方にアドバイスしていただきながら、販売する野菜や販売するための準備などについて話し合い、計画的に活動に取り組んだ。定期的に世話をするなどいい野菜をつくるためには様々な工夫や苦労があることを知った。そして、宣伝、包装など売るための準備をして、1袋50円で参観日に保護者に販売した。



収穫



ポスター作り



袋詰め

商品完成



参観日に販売

さつまいもや大根がたくさん収穫できてうれしかったです。洗うのが冷たくて大変だったです。最初売るのははさしかったけど、お客さんが笑顔で買ってくれてはさかさか吹っ飛びました。「がんばってるね」「すごいね」など、やさしい言葉をかけてくれてとてもうれしかったです。

(児童感想)



職員研修

4部会に分かれての具体的な実践内容や方法についての検討、資料作り、全体での理論研究・伝達講習等に取り組み、学校全体、教育活動全体でのキャリア教育の推進をめざしてきた。

今年度の実践は研究物としてまとめ、キャリア教育カレンダーを作成し、各家庭や地域のお世話になった方々に配布した。



キャリア教育カレンダー

IV おわりに

【成果】

- ・人とふれあい、地域とかかわる体験活動を通して、コミュニケーション能力が高まってきた。
- ・自分の役割を果たしながら友達と協力して食育体験活動に取り組むことで、自他の理解が深まり、「働くこと」の意義を感じる事ができた。
- ・児童生徒が交流する機会をもつことによって、中学校生活への不安が解消され、あこがれや期待感が高まった。

【課題】

- ・「学ぶこと」や「働くこと」の意義を実感できる体験活動をより充実させていく。
- ・「あいさつ・返事」「時間や約束を守る」などの職業人としての基盤となる生活態度を、中学校への進学に向けてしっかりと育成していく。
- ・発達や学びの連続性を大切に、幼稚園・小学校そして中学校との接続、家庭・地域との連携の在り方について検討し、体系的・一貫的なキャリア教育をより一層推進していく。

【岩倉中学校】

「キャリア教育を通じて自尊感情を高める取組～学習意欲の向上・学習習慣の確立を目指して～」

I はじめに

本校はさわやかなあいさつで学校生活が始まる。生徒は明るく素直で、勤労奉仕的活動にも意欲的に取り組んでいる。特に「花づくり活動」は今年度で29年目を迎え、生徒たちは、学校環境の整備をはじめ地域の環境づくりの一環として花の配布活動を行い、地域の方々に喜ばれている。生徒たちが、自分やお互いを認め合い、学び合う中で強い絆を育て、それぞれが自信をもって、本校を巣立ってほしいと考えている。キャリア教育に主体的に取り組み、すべての教育活動につなげ、生徒一人ひとりの未来を切り拓くことができるように、体験的な学び合いの中で、自尊感情を高めていこうとする力を育てる必要があると考え、本テーマを設定した。

II 研究にあたって

○研究組織（右図）


○各教科等とキャリア教育との関連（一部）

【国語】

★適切に表現し正確に理解する能力及び伝え合う能力の育成

<活動例>

- ・日常生活の中の話題について対話や討論をする。
- ・時間や場の条件に合わせてスピーチを行う。


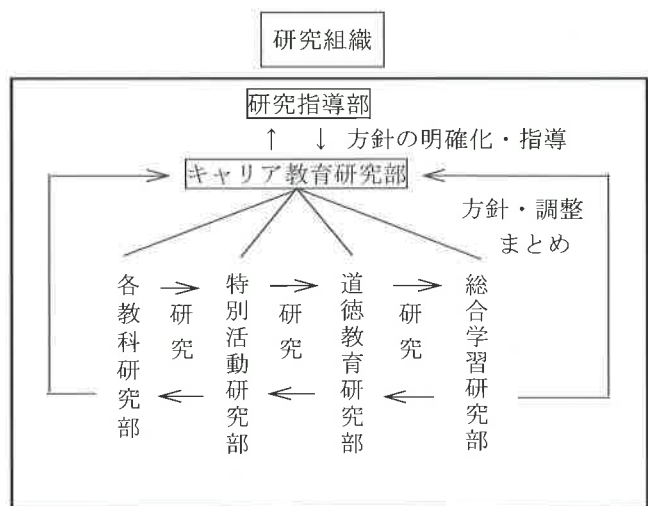


【美術】

★生活を美しく豊かにする美術の働きについての理解

<活動例>

- ・使いやすい形、使う人の気持ちを大切にしたい色、デザインを考える。

III 実践

【第1学年】

キャリア教育の視点により、自己理解と望ましい勤労観・職業観の基礎を培う。

<主な活動>

職業聞き取り活動

【第2学年】

キャリア教育の視点により、職業について自己の特徴と適性を考える。

<主な活動>

職場体験学習（夏休み：3日間）

【第3学年】

キャリア教育の視点により、将来を見通した社会的・職業的自立の素地を培う。

<主な活動>

高校体験入学
進路についての探究



クリーンセンターでの選別



ハンバーガーショップで接客



消防署でのホースの巻き取り

<事業所から>

職場体験ご苦労様でした。(中略) 保育所は、子どもが生涯にわたる人間形成にとっても大切な時期に、生活時間の多くを過ごす場です。そのために、一番大切な基本的な生活習慣(食事・睡眠・排泄)等の自立に向けた保育をしています。年齢や子ども一人ひとりの発達に応じて、健康で安全に生活しながら友だちといろいろな遊びを通して、人間関係や社会性を身に付け、豊かな感性や表現力、創造性の芽生えを培っています。

保育士は子どもの状態をよく知り、子どもが安心感と信頼感をもって活動でき、生活リズムを大切にしながら情緒が安定し、自分の思いが話せるなどの環境づくりに努めています。今回の職場体験が、将来の進路や職業をきめるときに役立つことを願っています。



6年生を招待して職場体験発表会

平成23年度

職場体験学習計画(第2学年)

実施日	指導内容	備考
4月	ビデオ鑑賞(職業についての)	職場体験学習を始めらねばならない。
6月9日(1)	ワークシート① 『職場体験学習の第一歩!』	自分が実際に体験したい職業や将来就きたい職業について考える。
6月15日(2)	学年全体で話し合い (『将来の職業を選ぶ上で重要なものを全体で話し合ってみよう。』)	職場を選ぶ上で、何が重要なものを全体で話し合ってみよう。
1年次に済み	電話・あいさつ等のマナー講習	講師の先生をお迎えして、各クラス1時間の講習(1年次に終了)
6月20日	体験グループ分け 体験事業所選び	福岡内を中心に体験したい職場ごとにグループ分けと事業所選びをする。 *希望調査を前日に取っておく
6月30日	体験グループ決定 体験事業所決定	体験グループと事業所を決定する。断られた時のために、いくつか候補を考えておく
6月30日(4)	① 交渉原稿の作成 ② 電話交渉 ③ 事前打ち合わせ表の作成 ④ 生徒名簿及び質問書	できるだけ生徒主体で活動する。
7月	① 電話交渉終了 ② 依頼文作成終了 ③ 事前打ち合わせ表の作成 ④ 生徒名簿及び質問書	できるだけ生徒主体で活動する。
7月中旬	事前打ち合わせ	デジカメの使い方の指導。
7月~8月 3日間	『職場体験学習』	ワークシートの記入と資料を残すこと。担当教師を決め、事業所を回る。写真撮影をして記録を残しておく。 *体験当日の約束事を指導し、電話連絡や交通手段・時間などを徹底させる。 体験の翌日に感想文提出
8月10日	職場体験学習のまとめ お礼文作成	写真を添付、まとめ学習。 お礼文の下書き・指導
9月中旬	職場体験学習のまとめ	各班ごとにまとめて、コンピュータで発表できるように資料を作成
9月後半	職場体験学習のまとめ	発表会の時間に合わせてリハーサルを行い、発表内容を練習する。
2月	『職場体験学習発表会』 入学説明会前に6年生を招いて実施する。	発表の準備・記録を残す。 保護者及び事業所にも案内文を出す。 小学校、学校評議員等に案内

IV おわりに

【成果】

- ・従来の教育をキャリア教育の視点に立って見直すことで、教育課程の改善が図られた。
- ・本校の研究テーマである自尊感情の向上や挑戦する勇気が徐々にあられ、生徒自身が成長を実感することができた。そして、生徒たちに学ぶことや働くこと、生きることの尊さを実感させることで、「学ぶ意欲」を引き出すことができた。
- ・キャリア教育を実践することで、人間関係形成能力・社会形成能力が高められ、地域と学校の結びつきが強化されたように感じられる。

【課題】

- ・生徒のキャリア発達を支援することにおいて、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間の取組を、有機的に関連付けることに不十分さがみられる。
- ・具体的な活動計画と各教科等の関連を図ったきめ細やかな指導計画の作成が必要である。
- ・体系的・一貫的な学習活動を展開することで、夢を膨らませる「勤労観・職業観」を生徒たちに身に付けさせていきたい。

【岩倉小・中学校合同の取組】

小学校と中学校とのスムーズな接続と一体的なキャリア教育を推進する手だてとして、児童生徒合同の花の栽培、6年生を招いてのキャリア教育発表会、教職員の合同人権研修等を実施している。



中学校の伝統・花づくりの体験

<人間関係形成能力>

児童たちは、中学校の先生方や中学1年生の先輩たちから植え方を教えてもらいながら、中学校の花壇と一緒に苗を植えた。初めて中学校へ行った児童も多く行く前は不安そうにしていたが、優しく教えてもらい、手際よく苗を植えることができた。中学校の伝統である花作りの規模の大きさにも驚き、自分たちも中学生になったら引き継いでいこうという意識ももてたようだった。小学校の野菜の栽培体験は中学校の花づくりにつながっている。

体験入学



中学校入学説明会を今年度から中学校を会場にして行い、6年生は保護者とともに校舎の見学や部活動の参観をした。

実際に見学することによって、中学校生活の具体的なイメージがわき、不安が解消されたようであった。

花植えは大変なのかなと思っていましたが、中1の先輩たちは楽しそうに花の苗を植えていました。中学生になったら、いろいろな花を植えてそだてるのが楽しみになりました。岩倉中学校は29年間も花づくりに取り組んでいるのがすごいなと思いました。私たちが植えた花がぐんぐん生長して大きなきれいな花を咲かせてほしいです。(児童感想)



阿南工業高等学校の取組

～マインドマップの取組～＜キャリアプランニング能力＞

1 目的

マインドマップ（MM）を活用して、生徒に自らの進路や将来の夢・希望を考えさせたり、学校の特色に応じた教科等の指導により、確かな学力の育成や進路の実現をさせる。

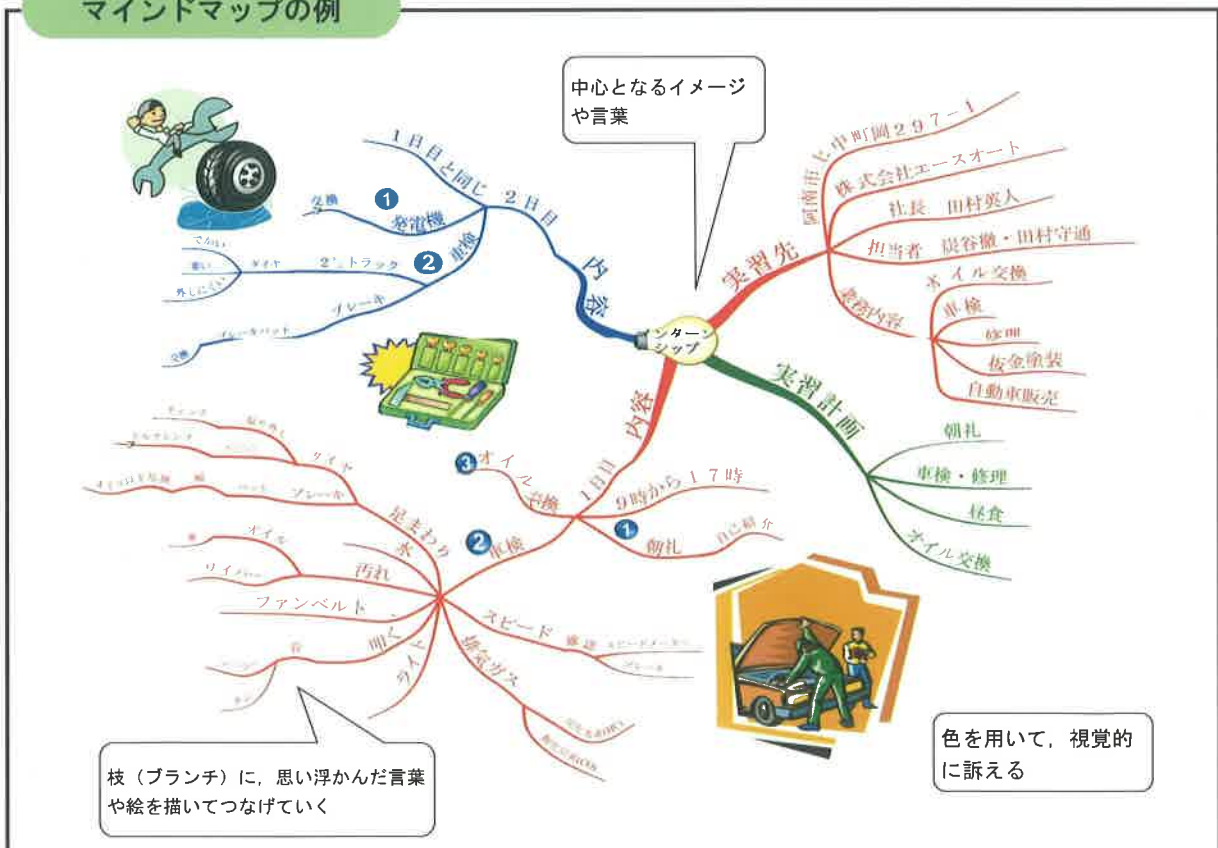
2 マインドマップ（MM）とは

私たちの頭の中で起こっていることを見えるようにした思考ツールです。

描き方は、表現したい概念の中心となるキーワードやイメージを中央に置き、そこから放射状にキーワードやイメージを広げ、繋げていきます。思考を整理し、発想を豊かにし、記憶力を高めるために、想像と連想を用いて思考を展開していきます。

この方法によって複雑な概念もコンパクトに表現でき、記憶・理解・発想が格段にやりやすくなり、ひいては解決策を見つけ出したり、何かを実行していくということがとてもやりやすくなると言われています。

マインドマップの例



3 活用例

(1) ホームルーム活動での活用

「1年生」：作成の方法を指導するとともに、将来の自分を考えさせ、自己肯定感を高めるMMを作成させている。

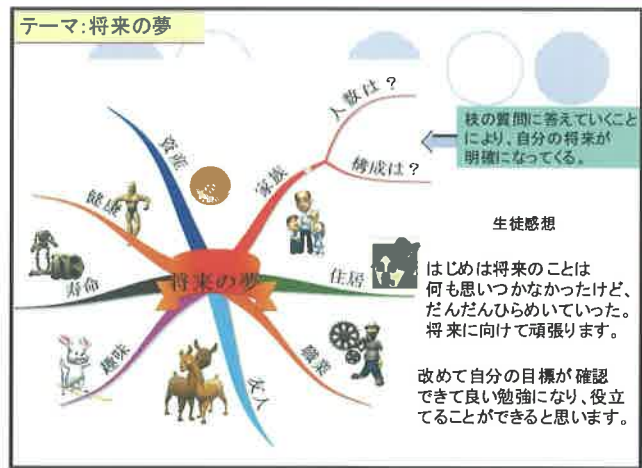
テーマ例：「ミラクルな（理想の）自分への道」「わくわくマップ」

「2年生」：自らの進路について方向性を明らかにし、今からどのような準備が必要か認識させるため、今の自分の分析、保護者の意見等を考えさせている。

テーマ例：「最高の高校生活を送るために」
「進路決定」「将来の夢」

「3年生」：卒業後の新生活に備えて、生活面や仕事面での注意事項、新しい人間関係の構築方法等を考えさせている。

テーマ例：「20歳の自分から今の自分へのアドバイス」
「新入社員・新入生として」

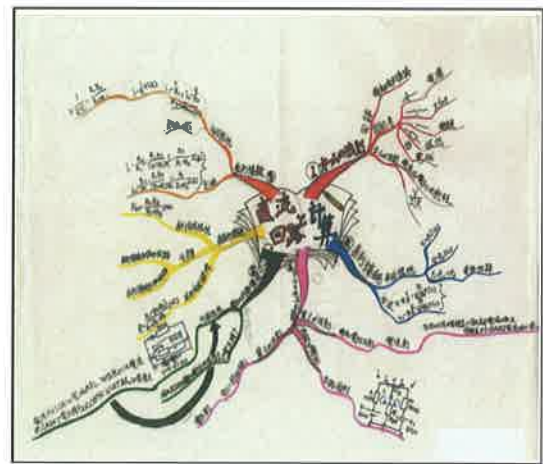
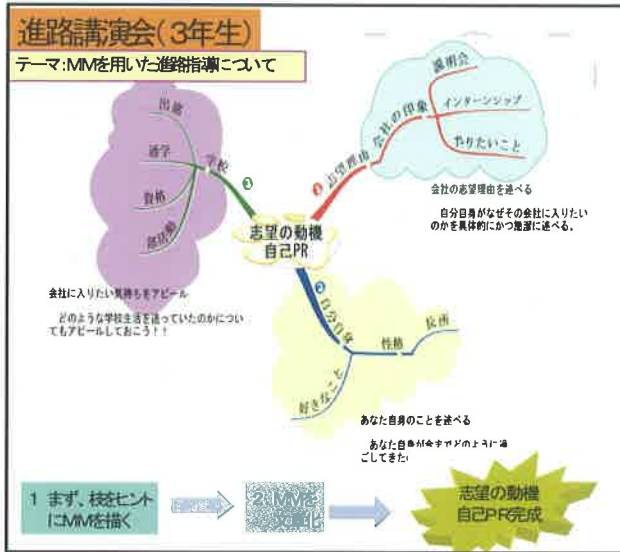


(2) 進路決定に向けた活用

「3年生対象進路講演会」

進路決定に向けて意識付けを行い、「自己PR」や「志望の動機」を書くために必要なことをMM教材を活用して学習している。

(3) 教科等に関する活用



電気工事関係



- ・様々な発想がわいてきたことにびっくりした。
 - ・今後どのような生活を送る必要があるのか、考えることができた。
 - ・色を使用しているのが、大変覚えやすかった。
 - ・普段の授業や試験勉強の時にマインドマップを使うと、わかりやすくまとめることができ、絵を描いて楽しく勉強ができ、効率が良い方法だと思った。
- (生徒感想)

4 成果

- ・ほとんどの生徒が、マインドマップは発想力の向上や考えをまとめ、意見発表に役立つと感じており、楽しく取り組んでいる。
- ・マインドマップのホームルーム活動での活用は、将来の夢を考えるきっかけとなり、生徒のやる気アップや学力向上にも役立っている。

板野高等学校の取組

～インターンシップの取組～

<人間関係形成・社会形成能力，キャリアプランニング能力>



1 対象学年・実施期間

- ・第1学年全員（176名），2日間実施

2 インターンシップ推進に向けた体制の構築

- ・管理職員，進路課，地域担当教員を中心に推進委員をおき，体制づくりを行う。

3 キャリア教育への理解

- ・職員会議
キャリア教育について，インターンシップの目的等の確認，教職員への協力依頼
- ・進路情報誌
学校独自の進路情報誌「ONES WAY + α」
生徒用（各学年年10回），教員用（年6回），保護者用（年2回）を発行

インターンシップ推進に向けた校内体制



4 インターンシップ実施計画

月	内容	教員	生徒
7～8月	受入先事業所の確保	・電話により受入可否の確認 ・依頼文送付 ・全教職員による企業訪問	
9月	事前指導 ※学年集会，総合的な学習の時間，ホームルーム活動等を活用して行う。	・インターンシップ意義の指導（勤労観・職業観の育成，働くことについての理解，職場での挨拶・人間関係等コミュニケーション能力の大切さについて） ・マナー，挨拶，電話対応等について直前まで継続指導 ・社会人講話の実施	・インターンシップの意義について ・社会人講話 ・仕事内容に関する調べ学習（インターネット等を活用） ・マナー，挨拶，電話対応等の講習
10月	希望職種の調査	・保護者への周知	・希望職種調査
11月	受入先企業の決定	・希望調査をもとに調整	
12月	受入企業（板野町・上板町・藍住町等）へ依頼状送付	・依頼状の送付 ・保護者承諾書の配布 ・「しおり」の作成	・依頼状の作成
1月24日 25日	インターンシップ実施（2日間） ※総合的な学習の時間	・インターンシップ実施中の訪問	・企業への事前訪問 ・インターンシップ実施
2月	事後指導 ・礼状，感想，レポートの作成 ・体験発表会	・礼状作成指導と送付 ・体験レポートの指導 ・体験発表会の実施	・礼状，感想文の作成 ・体験レポートの作成 ・体験発表会で報告（クラス毎，全体）

5 成果

- ・1年次から「仕事」を体験することにより，進学希望者は大学等の卒業後の就職を考え，学部・学科選択を大まかではあるが，比較的早い時期から決定することができている。
- ・就職希望者は，卒業後従事するであろう業務や職場の雰囲気や体験することにより，今後の学校生活への意欲が高まっている者が多い。



仕事には，コミュニケーション能力や言葉遣い等のマナーが重要であることを理解できました。（生徒感想）

多くの人と話し合ったり，意見を出し合ったりして，考える力が重要であると感じました。（生徒感想）



高等学校段階においては、自らの将来のキャリア形成を自ら考えさせ、選択させることが重要になります。自ら学び自ら考えさせるために、「学ぶことの意義」や「学ぶことの価値」を知らせるとともに、自己の判断力や価値観を創る上で体験活動からの学びを重視しましょう。

効果的なインターンシップの在り方

< 高等学校段階におけるインターンシップの目的 >

①働くこと、生きることの尊さを実感させ、勤労観、職業観を醸成する。

- ・生徒たちはインターンシップを通して「仕事」を成し遂げることにより、達成感や充実感、生きている実感を得ることができます。職場でプロフェッショナルな姿勢を目の当たりにすることは、自己の生き方を振り返る大きなきっかけとなります。

②進路選択への積極性を醸成する。

- ・インターンシップの体験は、生徒の視野を大きく広げ、自らの適性を考える機会となるとともに、自らの進路を積極的に考える機会となります。進学希望の生徒にとっても学部・学科や分野の選択やどのような職業に就きたいのかといったことに対して、明確な展望を持たせることにつながります。

普通科高校でも積極的に取り組みましょう！



③学習意欲を向上させる。

- ・体験を通し、その職業において必要な知識・技術・技能を認識することができ、目指すべき人間像が明確になることもあります。そのような中で、学ぶことの意味や重要性を認識することができ、教科の学習と職業において必要な知識・技能の関連性を理解することができます。



中学校の職場体験活動は、ある職業や仕事を暫定的な窓口としながら実社会の現実に向かい、高等学校におけるインターンシップは、将来進む可能性のある職業に関連する活動を試行的に体験することを通して社会人・職業人への移行準備に役立てることが中心的な課題になります。

中学校の職場体験活動とインターンシップはどう違うの？



< インターンシップ充実のための方策 >

📖 目的の明確化と意識改革

- ポイント1 目的を明確化する
- ポイント2 教職員の意識改革を図る

📖 校内体制の構築

- ポイント3 校長のリーダーシップの下で組織的に対応する
- ポイント4 ノウハウを蓄積する

OBや保護者・関係機関の力を活用しましょう！



📖 学校外部の教育資源の活用の推進

- ポイント5 学校と事業所をコーディネートする学校の外部組織を積極的に活用する

📖 学校の教育活動における位置付けの明確化

- ポイント6 入学から卒業までの指導計画の中でインターンシップを位置付ける

📖 効果的なインターンシップの実施

- ポイント7 生徒のニーズに合わせる
- ポイント8 十分な事前指導・事後指導を実施する
- ポイント9 卒業後の進路と結びつける

小学校での職場見学、中学校での職場体験活動等の成果を踏まえて展開していきましょう！



キャリア教育関係資料

◆文部科学省

- 「小学校キャリア教育の手引き」(改訂版) (平成23年 5月)
 「中学校キャリア教育の手引き」 (平成23年 3月)
 「高等学校キャリア教育の手引き」 (平成23年11月)
 中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」 (平成23年 1月)
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/1312379.htm

◆国立教育政策研究所

- 小・中・高等学校における基礎的・汎用的能力の育成のために「学校の特色を生かして実践するキャリア教育」 (平成23年11月)
 「キャリア教育の更なる充実のために一期待される教育委員会の役割一」 (平成23年 2月)
 「自分を社会に生かし、自立を目指すキャリア教育 一高等学校におけるキャリア教育推進のために一」 (平成22年 2月)
 「自分と社会をつなぎ、未来を拓くキャリア教育 一中学校におけるキャリア教育推進のために一」 (平成21年11月)
 「自分に気付き、未来を築くキャリア教育 一小学校におけるキャリア教育推進のために一」 (平成21年 3月)

※これらの各資料は、文部科学省ウェブサイトのページで御覧になれます。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/1312372.htm

調査研究校・協力校

<阿南市>

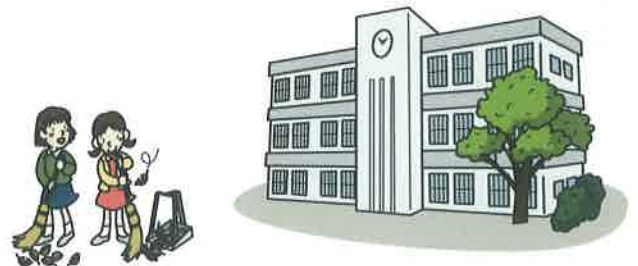
- 阿南市立福井小学校 (児童数 125人)
 所在地: 徳島県阿南市福井町大西192番地の1
 電話: 0884-34-2013
 ファクシミリ: 0884-34-2097
 学校HPアドレス: <http://www.infoeddy.ne.jp/~fukuisyo/>
- 阿南市立福井中学校 (生徒数 58人)
 所在地: 徳島県阿南市福井町大西141番地
 電話: 0884-34-2234
 ファクシミリ: 0884-34-2237
 学校HPアドレス: <http://www.infoeddy.ne.jp/~bamboo21/>

- 徳島県立阿南工業高等学校 (生徒数 366人)
 所在地: 徳島県阿南市宝田町今市中新開10の6
 電話: 0884-22-1408
 ファクシミリ: 0884-23-5155
 学校HPアドレス: <http://www.anan-th.tokushima-ec.ed.jp>

- 徳島県立板野高等学校 (生徒数 492人)
 所在地: 徳島県板野郡板野町川端字関ノ本47
 電話: 088-672-1101
 ファクシミリ: 088-672-4611
 学校HPアドレス: <http://itano-hs.tokushima-ec.ed.jp/>

<美馬市>

- 美馬市立岩倉小学校 (児童数 157人)
 所在地: 徳島県美馬市脇町岩倉2879番地
 電話: 0883-52-1249
 ファクシミリ: 0883-55-0750
 学校HPアドレス: <http://e-school.e-tokushima.or.jp/mima/es/iwakura/html/htdocs/>
- 美馬市立岩倉中学校 (生徒数 108人)
 所在地: 徳島県美馬市脇町別所3406番地
 電話: 0883-52-3303
 ファクシミリ: 0883-55-0764
 学校HPアドレス: <http://e-school.e-tokushima.or.jp/mima/jh/iwakura/html/htdocs/>



<引用・参考文献>

- 文部科学省
 「小学校キャリア教育の手引き」(改訂版)
 「中学校キャリア教育の手引き」
 「高等学校キャリア教育の手引き」
 「学校の特色を生かして実践するキャリア教育」

この冊子についてのお問い合わせ

徳島県教育委員会 学校政策課 〒770-8570 徳島県徳島市万代町1丁目1番地
 電話: 088-621-3137 ファクシミリ: 088-621-2882 Eメール: gakkouseisakuka@pref.tokushima.lg.jp